

えにし

通信

Vol.2

誰もが「おめでとう」と
誕生を祝福され
「ありがとう」と
看取られる地域づくり
マガジン

2015.3.31

信楽にある社会福祉法人しがらき会・信楽青年
寮が運営するギャラリー喫茶「緑の家」に集まっ
た地域の皆さん。(詳しくはP12参照)

今回の
「えにし」は
ここから★



大津市
日吉

大津市
瀬田

竜王町

甲賀市
信楽町

甲賀市
甲賀町

長浜市

彦根市



CONTENTS

- * 緑を広めよう・深めよう座談会 ……P2-3
「まずは、聞いたこと、見たこと、感じたことを
言葉にして伝え、みんなで共有すること。
「緑」はそこからスタートなのです。
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会
会長 奥野 之保さん 副会長 小林 江里子さん
- * 特集①「緑」実践に向けて 図①②③
緑につながる事例紹介 ……P4-5
- * 特集②教えて!えにしちゃん
制度のはざまってどういうこと? P6-7
- * 滋賀の緑実践レポート ……P8
図 フリースペースカーサがスタートしました!
- * 滋賀の緑創造実践センターの目標・会員名簿 P9
- * インフォメーション ……P10
- * 緑でつながる・広がる ……P11
- * 図 あなたにとって緑を感じるときは? ……P12



まずは、聞いたこと、見たこと、感じ みんなで共有すること。「縁」はそ たことを、言葉にして伝え、 ここからがスタートなのです。

さまざまな生活上の困難を抱えながら、生活を支援する福祉制度や地域のなかでの見守り・助け合いにつながりにくい人が増えています。地域のネットワークから孤立してしまうと、生活困難の状況が深刻になっても、SOSを伝えることが難しくなります。

民生委員児童委員として、地域住民に寄り添い相談支援活動に取り組むお二人から、日頃の活動のなかで気になる課題をどのように縁センターの活動につなげていけばよいか、話し合っていました。

道員県民生委員児童委員協議会連合会
副会長

(滝王町民生委員児童委員協議会 会長)

こばやし えりこ

小林 江里子さん

一緒に「おいしいね」と言いながら
食事をすることで、孤立感の
ある人も安心できますね。

地区の民生委員3人のよびかけで、夏休みの課題、親が仕事で1人になってしまふ子どもたちのために期間限定の学習クラブを開催。地域の人がサポーターとして加わったほか、1年目に来ていた子どもたちが大学生になり、ボランティアとして参加するなど、地域に根付いた活動となっている。

家族のなかにある複数の課題が絡み合い、
ご本人たちだけではどうしようもない
ケースが増えている

谷口 民生委員として地域に関わる中で、いくつもの課題を抱える人や家族と出合っ、困難を感じていることはありますか。

小林 子ども同士の間で問題があって家を訪ねてみると、実はその家庭の中での問題が見えてきた、というケースがありますね。

興屋 今、シングルマザーが増えています、同居している親に浪費癖があって生活がままならない、というケースがあります。子育ての問題の背後に就労の問題があって、民

生委員の力だけでは解決が難しいですね。子育てだけでなく経済面でも支援をしていかないと、「貧困の連鎖」が起こって将来的に困る子どもがたくさん出てくるのではないかと心配しています。

谷口 問題がわかっていても、サービスにつなげるのが難しいことはありますか？

小林 認知症の高齢者のひとりぐらしのケースなどは難しいですね。この人は認知症だと分かっても、ご本人に自覚がないので、なかなか病院に連れて行くことができないんです。車の運転もされていて、もう二回は事故を起こしているんで免許証を返納させたいのですが、それも本人が申し出ない限りはどうしようもないので、近所の人に「車に気をつけて」というぐらいしか出来ません。

興屋 「ひきこもり」の問題もなかなかサービスにつなげるのが難しいですね。地域のふれあいサロンに参加されている高齢者の息子さん(中高年)が家に閉じこもっている様子で気になっているのですが、「息子さんはどうですか」と声をかけても、結局「何とかやっているから」と言われ、家に訪問することができずに終わっています。

谷口 その他に、一つのサービスだけでは支えるのが難しいと感じることはありますか。

興屋 例えば、いじめの問題などは、地域の人から、あの家の子どもがいじめられているようだ、という話が入ってきても、すぐには介入できませんから、まずは学校の先生から、子どもの学校での様子や健康状態などの情報を集めます。そして、内容によっては、学校・行政などの関係者が集まって、対応を協議することになります。

谷口 そうすると、それぞれの人や家族が抱える問題を、親身になれる住民と専門職で共有する場が必要になってきますね。

孤立が心配な子どもや大人に、
小さな安心や人といっしょにいることの
温かさを味わってもらえる場所をつくりたい

興屋 私は大津市のファミリーサポートセンターの会員になって、これまで父子家庭の支援をしてきました。ひとり親家庭は、親が専業主婦で子どもがひとりになってしまうので大変なんです。そこで、児童保育の後私の家で預かって、夕食を一緒に食べていました。そういう支援がないと、孤立

してしまう人も多いのではないのでしょうか。子どもはカレーライスが好きなので、よく食卓に登場しましたよ。

小林 私たちも月1回、地域で食事ができる場を作っています。同居家族がいても、実際は一人で食事をしている人が多いんです。一緒に「おいしいね」と言いながら食事することで、孤立感のある人も安心できるんですね。また、民生委員のよびかけで、夏休みの間だけ子どもが通える児童クラブを開催しています。大変ですが、皆さんから喜んでもらえるとはうれしいですね。最近は大津市や地域のサポーターにも加わってもらっていますが、民生委員だけでは大変なので、地域のみんなで取り組んでいきたいと思っています。

谷口 実は、縁センターでは来年度から「遊べる・学べる淡海子ども食堂」を地域につくろうという事業を始めることになりました。福祉施設や集会所で月1回でも週1回でも、孤立が心配な子どもが地域のお兄さんやお姉さん、おばちゃんやおっちゃんや夕食と一緒に食べられる場をこしらえようという事業です。ここには、ぜひ民生委員の皆さんにも来てもらって、話を聞いたり、地域でつながりが必要だと感じておられる人に「淡海子ども食堂と一緒に行動しよう」と声をかけてもらえたりすると、ありがたいですね。

気がかりな人が安心できる言葉を届ける
人を増やし、いざというときにはしっかりと
支えられる地域をつくっていききたい

谷口 民生委員として地域に関わる中で、今とくに大切なと思うことはありますか。

小林 私は、子育てをしているお母さんが、保育士さんや周りの人のアドバイスを聞けずに子育てサロンにも来なくなってしまうという例をよく見てきました。それで、なぜそうなるのかと考えていたんですが、一人で子育てをしていると、疑問に思ったことや不満などを吐き出す場所がなく、自分のことを聞いてもらえず、自分の考えだけで子育てし、人の意見を受け付けられなくなってしまうのかなあと最近気づきました。

興屋 これまで福祉とあまり関わりがなく、会社で働いていたような人をまきこんでいくこともポイントだと思っています。今大津では、子どもの学習支援活動として「寺子屋プロジェクト」に若い世代が取り組んでいます。このように、地域

の中で気がかりな人にそっと安心の言葉を届けられる人を増やし、いざというときにはしっかりと支えられる形をつくっていききたいですね。

小林 地域の中には65歳以上で元気な人もたくさんおられるので、活動に賛同して下さる方を掘り起こして、その力を生かしてもらおうのがいいと思います。

興屋 そうしてつながりができ、また「遊べる・学べる淡海子ども食堂」のような居場所が出来てくると、私たち民生委員は困っている人に「あの場所に行ってみたらどうですか」

道員県民生委員児童委員協議会連合会 会長

(大津市民生委員児童委員協議会連合会会長
道員の縁創造実践センター理事)

こや はさやす

呉屋 之保さん

困っている人に「あの場所に行ってみたら」と声をかけられる
場ができるといいですね。

大津市のファミリーサポートセンターの「まかせて会員」として、児童保育が終わってから親が帰宅するまでの時間、父子家庭の子どもを預かる活動を続けてきた。またスポーツ少年団のコーチとしても、子どもたちに関わり続けている。



と声をかけられるので、解決に向けた動きにつなげやすくなります。その意味で、これからの展開が大事です。楽しみです。

小林 地域の方からの「ありがとう」が民生委員にとっての報酬です。気がかりな人や世帯をそっと見守り、「これはなんとかしないと」と判断したときに安心して相談できる関係機関とのつながりを太くしていこうというのが縁センターの取り組みだと思います。

谷口 民生委員さんをはじめ、保育士さんや介護福祉士さんなど子どもさんや高齢者の方をおして家庭全体をみておられる福祉関係者の方がキャッチされたことを、まずは言葉にして伝え、次につなげる場にしていくことが大切ですね。どうもありがとうございます。

縁につながる事例紹介

事例1

めぐみ保育園
(彦根市)
園長
児玉 恵子さん



保育士の気づき

本人からの「助けて」という言葉はないが、しんどさを抱えていることは伺える。どうしたら...

私たちはお子さんをお預かりする中で、本人からのSOSはなくてもしんどそうだな、何とかできないかな、と思う場面があります。

たとえば、あるお母さんは精神疾患を抱え、障害者手帳はあっても支援の対象に当てはまらず、必要なサービスを受け

れていませんでした。しんどさから、子どもがお風呂に入れないことや、金銭管理が困難でご飯が食べられないこともありました。その人なりに一生懸命育児をしていることはわかるのですが、子どもは体や衣服に臭いがある日も、「何か困ってない?」と聞いても、「大丈夫。」と言われた

介護の現場からの気づき

決して他人事ではない介護。いずれ自分も直面するという意識が大切です。



●施設だけでは対応できない課題が多くあります。例えば施設を拒否する方には本人が喜ぶところへ行くツアーを企画するなど、柔軟な介護なサービス等を企画立案し、実施できるようにすることが理想ですね。

(東郷さん)

●日頃から頻りに話を聞き、声をかけるといった周りの関係づくりをしていくことが基本ですが、地域の中でも見守りができる環境づくりが必要ですね。(橋さん)

特別養護老人ホーム アンタレス(長浜市)
橋本さん(社会福祉士/右)
特別養護老人ホーム 坂田青成苑(米原市)
東郷和也さん(介護福祉士/左)



事例2

ご両親の介護に追われて、本来なら働き盛りの年齢の人が仕事に行けなくなり、再び社会に出る機会を逃してしまふ。最近、このようなケースに出会うことが増えてきました。高齢になった親の介護で仕事を辞めると、貯金も底をつき、親の年金に頼るといったケースが見られます。経済的理由でサービスを受けることもできず、終わりの見えない介護に悩み疲れても、「人に介護をしていることを知られたくない」「見られたくない」という思いから、周りにSOSをうまく出せずにいる人が多いです。そうして抱え込み、最悪虐待のようなケースにつながってしまう。

数年前ですが、深刻な事態に気づき、何とかしたいと思い、支援に動いたことがありました。しかし、利用者本人が

の責任でもあるんです。

親も子どものびのびと子育てできる地域づくりのため、在宅子育て家庭への園開放、高宮学区では地域の公民館活動に職員や子どもが参加したり、保育園、幼稚園(公立)、小学校との行き来を頻りに行ったりして交流を深めています。業務に忙しい中でできることは限られていますが、一人でも少しでも救えたら、と続けています。



児童養護施設職員の気づき

子どもたちを理解し、受け止める仲間がもっと必要。まずは子どもたちのことをもっと知ってほしい。



④(公財)資生堂社会福祉事業財団とコラボレーションする形で春田さん所属のNPO STARSが作成協力した電子書籍「そらまめガイド」。児童養護施設職員の書き方や病院の選び方など、一般的には分かっていないと思う内容に載せられる。

自分で生活を築いていくには、「信頼できる大人」「社会で生きていく覚悟」「生きていくためのお金」の3つが必要だと思っています。少しでも子どもたちの助けになればと、施設の仕事を以てNPO活動に参画し、子どもの自立支援に役立てる電子書籍「そらまめガイド」の作成協力。また、大学の講義にも出掛け、人材育成にも取り組んでいます。

児童養護施設龍溪の家(甲賀市) 副施設長
春田 真樹さん

事例3



「先生は、私が大人になってもここにいる?」

4歳の女の子に聞かれました。施設の子どもはさまざまな事情で親と暮らせず、自分を見守り続けてくれる大人を求めています。施設では皆と暮らしていますが、原則18歳で退所した後は自分で生活を築いていかねばなりません。

しかし、いざ1人暮らしを始めると、「今までしてなかったけど、できていること」がわからないことってありますよね?選べる作りの方やお金のやりくり等、本当に些細なこと。親がいたら訊いたら済むことですが、施設にいた子はそうはいかない。そこで周りに「こんなこともわからんのか」と言われたら、誰でも傷つきますよね。そうした気持ちを受け止めてもらえない経験の積み重ねで自信を失い、つまり、生活や就労の継続

が難しくなるケースが約2割あります。

職員を頼って連絡をくれることもあります。自分の頼りたい人がいないと電話を切ってしまう。実はこの仕事は重労働で、職員の入れ替わりが激しいんです。子どもたちは皆小さいうちからそれを知っているからこそ、このような質問をさせてしまう。

うちの施設では自立後の生活について話し、少しずつ社会で生きていく準備をしています。しかし、彼らに本当に必要なのは自分を理解し、受け止めてくれる人の存在です。

「ずっといるよ」と答えたい、との思いでここまで来ました。でも、そう聞いてくる子は多いので、僕もまだまだ元気でないといけませんね(笑)

制度のはざまってどういうこと？

～現場の気づきと縁の実践～



気づき
①

80代認知症女性の家にヘルパーとして訪問すると、50代の未就労の息子がいた。2人の暮らしは母の年金に頼っており、母も自身の死後を心配している。

気づき
⑤

園児の服がいつも洗濯されていないため、臭いがある。一生懸命育児をされているのはわかるけど、このままではいじめ等につながってしまうのでは…

心配な家庭の子どもをどう支えていくかを専門職と地域の関係者で相談し、支える仕組みをつくります。



実践E



実践A

人づきあいや社会参加が苦手な人が、地域で活動したり、働けるようになるきっかけを作ります。

気づき
②

近所の子が学校に行っていないようだ…小学生なのに下の兄弟の面倒も見ていて、親も精神的に不安定な様子で心配。

このような

しんどさ・困りごとを抱える人や家庭は、決して少なくありません。現場の支援者はそのことに気づいても自身が行う職務の範囲を超えている部分で手が出せなかったり、人手が足りなかったりするため、支援者自身も「助けたのに助けられない」苦しい思いを抱えています。「滋賀の縁」はそうしたしんどさや困りごとを解決に導く解決策を皆で考え出そうという集まりです。現在、縁センターでは実践A～Eの取り組みを進めていますが、その根っここの部分となるのはやはり地域のつながりです。周りの人の喜びや悲しみに気づき、分かちあい、周りを見守り、見守られる力を育むために、皆が参加する滋賀の福祉が求められています。

気づき
④

施設や里親のもとで育った子どもたちの退所後の就労継続が難しい、また、そうしてつまづいたときの居場所がない…世間に子どもたちのことをもっと知ってほしい。



実践D

企業とのつながりをつくり、施設や里親家庭の子どもたちの就労体験を実施したり、子どもたちを理解し支えになってくれる人を育てます。

児童養護施設

気づき
③

重度の障害のある人の中には週に1～2回しか入浴できていない人がいるが、もっと入れてあげたいと希望している家族も多い。

高齢者施設

福祉制度や介護保険制度の壁を越え、障害者が近隣の高齢者施設の風呂を利用して入浴サービスが受けられるようにします。

障害者施設

実践B

地域の社会福祉施設を利用・活用して、学校に行きにくくなっている子どもや親の居場所を作ります。

利活用

利活用



実践C

“フリースペースカーサ” がスタートしました!

地域の声を聞く!

「地域の居場所として社会福祉施設を活用できないですか?」

「居場所づくり」小委員会リーダーの日比氏が所属する施設で実施されている「地域ケアを考えるセミナー」で、地域住民の方や施設の職員に問いかけてみました。すると、様々なアイデアとともに「地域のなかに、学校に通えていない子どものことで悩んでいる親がいる」、「その子どもや親の居場所として施設を活用できないか」との声がありました。

学校に行きにくくなった子どもの実態とは?

子どもたちのなかには、学校生活の要因(いじめ等)だけでなく、生活が困窮していることや親が病気や障害を抱えていることで家事を子どもが担っている等の家庭の課題が背景にあることから、学校に行きにくい子どもが多くいます。そうした課題は、学校現場だけで解決することが難しいのが現状です。また、そうした子どもたちを地域で支える場所が不足していることも事実です。

県内の居場所づくりの実践

県内では、子どもの貧困対策として、ボランティアと専門職による夕方から夜の子どもの生活支援・居場所づくり「トワイライトステイ事業」(大津市社協実施)が始まっています。学校にも家庭にも居場所がない子どもたちのために、家庭的な居場所を地域につくり、子どもたちを育てています。



「居場所づくり」小委員会では、県内の子どもの実態をスクールソーシャルワーカーから聞き、すでに取り組まれている居場所づくりの実践を参考に、モデル事業の企画をすすめてきました。

そして、学校に行きにくくなっている子どもや悩みを抱えている親を対象に、地域の社会福祉施設を活用したモデル事業を企画しました。

モデル事業の名称は…

“フリースペースカーサ”です!



※まずは、特別養護老人ホーム カーサ月の輪(大津市)を拠点に試行的に実践しています。

“フリースペースカーサ”の実施体制は、社会福祉施設を拠点に、学校等と調整・連携して子どもを居場所につなぐワーカーを配置し、子どもの見守り役の管理人さん、専門的に子どもとかわることが出来るワーカー、地域・学生ボランティア、社会福祉協議会と“チーム”で取り組んでいます。

今後、県内いくつもの地域で、子どもを支える居場所“フリースペース(施設の名前が入ります)”をつくっていきます!

“フリースペースカーサ” では こんな過ごし方♪

- 17:30 子どもの到着
- 17:30~ 自分の時間をゆっくり過ごそう♪
- 18:00~ 施設のおいしいご飯をみんなで食べよう!
- 19:00~ 施設の大きなお風呂に入ろう!
- 19:30~ 宿題をしたり、漫画を読んだり、映画を観たり♪
- 21:00 子どもの帰宅

“フリースペースカーサ”は、24時間必ず誰かがいて、ご飯があって、お風呂があります。

施設のお手伝いを通じて「ありがとう」と言われることを経験する等、子ども自身が役割を感じられる機会もあります。



滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

①地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)

だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。

【リーディングプロジェクト】(1)「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(2)“縁”認証事業

②課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)

一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくりまします。

③制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。

④国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案

モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくりまします。

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成27年2月27日現在)

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会長会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会

■参加法人会員名簿 ※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

<大津>(一財)博愛会・(福)穴太福祉会・(福)近江会・(福)大石福祉会・(福)大津市社会福祉協議会・(福)大津市社会福祉事業団
(福)大津せんだん会・(福)大津ひかり福祉会・(福)おおみ福祉会・(福)華頂会・(福)唐崎福祉会・(福)唐橋福祉会
(福)共生シンフォニー・(福)桐生会・(福)幸寿会・(福)湖青福祉会・(福)小鳩会・(福)滋賀同仁会・(福)志賀福祉会・(福)春風会
(福)真盛園・(福)石光山会・(福)禅心福祉会・(福)せんだん二葉会・(福)つばさ会・(福)琵琶湖愛輪会・(福)美輪湖の家大津・(福)楽樹
<湖南>(福)明富の郷・(福)恩賜財団済生会・(福)こだま保育園・(福)彩陽会・(福)しあわせ会・(福)慈恵会・(福)すぎのこ保育園
(福)聖優会・(福)パレット・ミル・(福)ひかり会・(福)びわこ学園・(福)みのり・(福)守山市社会福祉協議会・(福)野洲慈恵会
(福)野洲市社会福祉協議会・(福)よつば会・(福)栗東市社会福祉協議会・(福)良友会
<甲賀>(福)あいの土山福祉会・(福)芦穂会・(福)近江ちいさ会・(福)近江和順会・(福)おさなご会・(福)甲賀会・(福)甲賀学園
(福)甲賀市社会福祉協議会・(福)甲南会・(福)湖南市社会福祉協議会・(福)さわらび福祉会・(福)しがらき会・(福)信楽福祉会
(福)天地会・(福)八起会・(福)ひまわり会
<東近江>(学)滋賀学園・(福)育新会・(福)一善会・(福)近江兄弟社地塩会・(福)近江八幡市社会福祉協議会
(福)近江はちまん社会福祉事業協会・(福)グロー(生きることが光になる)・(福)恵泉会・(福)湖東会・(福)さくら会・(福)サルビア会
(福)慈照会・(福)真寿会・(福)布引会・(福)八宮会・(福)東近江市社会福祉協議会・(福)日野町社会福祉協議会・(福)日野友愛会
(福)ほのぼの会・(福)雪野会・(福)竜王町社会福祉協議会・(福)六心会・特定非営利活動法人しみんふくし滋賀
<湖東>(福)愛荘町社会福祉協議会・(福)あすなろ福祉会・(福)近江ふるさと会・(福)甲良町社会福祉協議会・(福)ことぶき会
(福)さざなみ会・(福)さざなみ学園・(福)椎の実会・(福)崇徳会・(福)大樹会・(福)多賀町社会福祉協議会・(福)豊郷町社会福祉協議会
(福)彦根市社会福祉協議会・(福)彦根福祉会・(福)みづほ会・(福)三つ和会・(福)若葉会
<湖北>(福)愛悠ものの会・(福)柏葉会・(福)カトリック京都司教区カリタス会・(福)啓朋会・(福)光寿会・(福)公悠会・(福)湖北報恩会
(福)青祥会・(福)尊徳会・(福)達真会・(福)長浜市社会福祉協議会・(福)米原市社会福祉協議会・(福)まんてん
<高島>(福)近江愛隣会・(福)光養会・(福)慈光会・(福)新旭みのり会・(福)たかしま会・(福)高島市社会福祉協議会・(福)虹の会
(福)はこぶね会・(福)ゆたか会
<県域>(福)滋賀県社会福祉協議会

【個人会員】上野谷 加代子・山辺 朗子・上西 祥之・廣田 敬史・大谷 雅代・宮本 育子

【賛助会員】元三フード株式会社・総本山西教寺

滋賀の縁創造実践センターの ピンバッジができました!

この冊子でもあちこちに登場している、縁のシンボルマーク「えにしちゃん」のとてもかわいいピンバッジが出来ました。

お値段も可愛らしく、1個200円です(内20円が縁センターの活動費となります)。

滋賀の縁は福祉関係者や行政だけでなく、滋賀に暮らす一人ひとり、皆が主役の取り組みです。“縁づくり”をともにすすめる人たちの印、皆さまもぜひ一緒に!

お問い合わせは事務局までお願いします。



始まります! 遊べる・学べる 淡海子ども食堂づくり

縁センターでは、現在「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の準備を進めています。この事業は、しんどい思いをしている子どもたちを地域で大事にしようという志を具体化したもので、いわば子どものためのみんなの食堂です。ぜひ県民のみなさんとともに、それぞれの地域の特色を生かした素敵な居場所づくりを考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします!



ただいま、会員を募集しています!

本会の設立趣旨に賛同し、主体的に活動しようとする仲間を随時募集しています。私たちと一緒に、皆さんの周りの困りごと解決に向けた仕組みづくりに取り組んでみませんか? 規程や申込み等詳細については、左記ホームページよりご覧いただけます。

(1) 団体・法人会員

本会の設立趣旨に賛同し、他の会員とともに本会活動の主体者として参加しようとする団体・法人

(2) 個人会員

本会の設立趣旨に賛同し、他の会員とともに本会活動の主体者として参加しようとする個人

(3) 賛助会員

本会の設立趣旨に賛同し、本会活動を賛助しようとする団体等

ご参画、お待ちしております!

編集 後記

先日、朝8時にインターホンが鳴りました。出てみると、初めてお話しする隣の家のおばあちゃん。用件を聞くと、家の電気のヒューズが飛んでしまった、息子に連絡したいから電話を貸してほしいとのこと。それなら、と私がお邪魔して直したのですが、「本当に助かった、これをご縁にこれからもよろしく」と喜んでくださる姿と新しいご縁に、私も嬉しい気持ちになりました。自分が高齢になって困ったとき、周りに助けてと言える素直さを持っていたい、そしてそれを受け止めてもらえる環境をこれからの人生でつくっていききたいと思いました。

ホームページ・facebookのご案内



ホームページでは縁センターの会員名簿、規程や申し込み等詳細について公開しています。

また、facebookでも小委員会の動きや圏域ごとの集まり等、随時更新中です。

<http://www.shigashakyo.jp/enishi/>

お問い合わせ先はこちら

滋賀の縁創造実践センター事務局

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内

TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160 ✉ enishi@shigashakyo.jp

えにし通信は、
赤い羽根共同募金の
助成を受けて
発行しています。

赤い羽根
共同募金

縁でつながる・広がる

人と人、世代と世代が会い、縁を深めることのできる
 滋賀のいろんな場所を訪ねて、ご紹介します。

誰もが自然体で、やりたいことを地域の仲間と楽しめる場所

サロンひまわり 信楽中央公民館(親友会)

趣ある陶器に注がれるコーヒーの芳醇な香りと明るく響く笑い声。週に一度、信楽中央公民館のロビーにサロンひまわりがオープンします。精神に障がいのある人たちの自立生活支援活動をしている当事者団体・親友会が主催し、ボランティアグループあすなろがサポートを務めるこの場所には、いつも幅広い世代の地域の人々が集います。「鬱になり、つい家にこもりがちだった



▲参加団体hugによるバルーンアート体験の様子。

が、ここに来れば仲間がいる。共感してもらえ
 ことで楽になった」「サポートボランティアは皆
 とのおしゃべりが楽しくて、だから続けられる」
 「子育ても落ち着いたから、パッチワークを教
 えに来ています」等、さまざまな声がかけられます。

また、この日は午後から甲賀市ボランティア
 連絡協議会信楽支部の2ヵ月に一度の定例会。
 今年度の振り返りや各団体の活動紹介の後、交
 流会ではメンバー皆で参加団体のhugによるバ
 ルーンアートに挑戦。誰もが自然体でやりたい
 ことを地域の仲間と楽しめる、あたたかい居場
 所になっています。

甲賀市ボランティア連絡協議会信楽支部の
 皆さんは、表紙に登場の「緑の家」に集った皆さ
 さんが実行委員を務めるイベント「ふれ愛キャン
 プ」「ふれ愛クリスマス」でも活躍されていま
 す！



▲「サロンひまわり」に集まったみなさん

サロンひまわり

住所

信楽町長野1252番地
 甲賀市役所信楽支所奥側隣接
 信楽中央公民館内

TEL

0748-82-8031
 (甲賀市社会福祉協議会
 信楽地域福祉活動センター)

開催日

毎週水曜日
 10:00~15:30

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成27年度

ボランティア活動保険

全国200万人
 加入!!

補償金額(保険金額)

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金		1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金		1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額		6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円
	特定感染症の補償 葬祭費用保険金 (特定感染症)		上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ 300万円(限度額)	
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円 (限度額)	5億円 (限度額)

年間保険料

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)			430円	650円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付帯傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(普通傷害保険)

福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

● お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者

社会福祉法人
 全国社会福祉協議会

(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
 TEL: 03(3593)6824

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

あなたにとって 感じる 縁えにしとは？

ギャラリー喫茶「緑の家」に集まった
15人の皆さんに聞きました。



上田清樹さん(57歳)
信楽青年寮施設長
※この日はピンチヒッターでマスターに
ふれ愛キャンプ実行委員会代表

縁はつくろうとしてできるものではなく、ものや場所を介して、いろいろな人と関わりあいつながることで自然と生まれるものだと思います。でも、なかには苦手な人もおられます。そのような人には、ものや場所といったつながるチャンスの機会は必要ですね。まさにこの場もそのひとつです。

「ふれ愛キャンプ実行委員会」のボランティアメンバーに入り、地域での人とのつながりを実感しました。町の中に出ると、縁を感じる人に囲まれていることに気づかれますね。



大槻敏明さん(55歳)
さわらび作業所施設長

「ふれ愛キャンプ実行委員会」のボランティアスタッフとしても活動し、周りの人に声をかけるとみんな参加してくれます。そこに縁を感じますね。

山田妙子さん・横井秀美さん
(62歳) (58歳)

橋本映子さん(？歳)
フラダンス
「ホアヒリ滋賀」の講師



家にひきこもっているお年寄りもフラを習うことで人とコミュニケーションを図る事ができ、元気になれます。フラを踊る仲間たちの出会いは、まさに縁ですね。

先生のフラの練習は私たちが口コミで広げていきました。きつとフラがなければ出会うことがなかった人たちと、フラを通じて出会い、輪が広がりました。そこに縁を感じますね。

林志郎さん
(39歳)
老人ホーム勤務



「ふれ愛キャンプ実行委員会」に中学生の時から参加しています。休みの時は夫と「hug」という名でバルーンアートを作って施設などを訪問しています。縁は活動を通して生まれてくるものですね。

齒黒智也さん(33歳)会社員
あずさん(29歳)看護師
ほのかちゃん(1歳)



川口勝久さん(64歳)
陶芸家

縁とはまず自分を生んでくれた両親との縁ですね。そして、今思うのは人生辛い時も人との出会いやつながりがあれば人生は楽しくなるということです。縁はそうした人とのぬくもりですね。

上田美恵子さん(54歳)
お孫さんの
山本妃衣菜ちゃん(2歳)
和奏斗ちゃん(2歳)



今は専業主婦ですが、保育士になって先生同士の、子どもさんの保護者ともつながり、今は孫世代ともつながっています。年齢の差に関係なく広がりが深まっていくのが縁ですね。

子どものころから母に連れられてボランティア活動に参加していました。大人になってその頃にお世話になった方々と再会し、今一緒に仕事させてもらうようになったことに大きな縁を感じています。

植田裕一さん(29歳)
甲賀市社協勤務



私の場合ここの縁は求人募集でした。目的を持って働く事で多くの福祉関係の人とつながっていったように思います。目的を持つ事で縁が生まれていますね。



稲森康恵さん(28歳)
しがらき地域生活
支援センター勤務

奥田隆也さん
(61歳/中)
紫香楽ヴィラ管理人
「ふれ愛キャンプ実行委員会」顧問



定年までは甲賀市社協に勤めていました。そこで関わった人たちが地域で一緒に活動されていることに縁を感じますね。ボランティアの輪が広がることにつながりの大切さを感じます。

ワークセンター
紫香楽で
紙すきをしている
中瀬邦彦さん
(67歳/左)
小笠原幹夫さん
(65歳/右)

ギャラリー喫茶「緑の家」 (社会福祉法人しがらき会・信楽青年寮運営)

地域の老若男女が集まりゆったり、ほんわかと過ごせるギャラリー喫茶

住所 甲賀市信楽町牧1058番地24
営業時間 10:00～16:00(水・木休み)
問い合わせ先 0748-83-1098



牧東交差点紫香楽宮跡方面へ100m、店名通りの緑色の建物がギャラリー喫茶「緑の家」です。さらに「ぼんた焼」と書かれた緑ののぼり旗に誘われます。「ぼんた焼」はたい焼きの狸型バージョンで、この喫茶を運営する信楽青年寮が障がい者の就労支援のために製造販売。信楽の名物として人気を集めています。ギャラリースペースには、利

用者さんの作られた食器や紫香楽和紙製品、さりを織り等も展示・販売。利用者の方が毎日お店番をしているという、アットホームなお店です。「ほんとはね、小学生の子どもたちが通学の帰りに、夏の暑い時は休憩に立ち寄ってもいい場所にしたいんですよ」と語る信楽青年寮施設長の上田清樹さん。地域の人同士、互いの温度を確かめ合う場所「緑の家」。ゆったり、ほんわかと過ごせる集いのスペースです。



◀「緑の家」でも作っている「ぼんた焼」。種類はあんとかスタードの2種類(1個100円)。熱々が頂ける。その他、ドリンク 250～350円(13種)、ケーキセット500円。

